

振興会議の目的

藤島地域の教育環境の将来像を検討

- ① **学校施設の老朽化**
 - ・ 藤島中(築55年)の改築
 - ・ 各小学校の老朽化
- ② **小中一貫教育の導入**
 - ・ 藤島中改築を契機とする、藤島地域の小中一貫教育のあり方

振興会議の検討事項

- ① 藤島地域の教育環境の現状と課題
- ② 藤島中改築に伴う教育環境の整備方針、藤島地域における小中一貫教育の形態
- ③ 小中一貫教育の先進事例
- ④ 令和4年度の議論を踏まえた、藤島地域小中学校のあり方
- ⑤ 藤島地域小中学校のあり方を踏まえた、新校舎の施設規模、校舎機能
- ⑥ コミュニティ・スクール、部活動地域移行など地域支援のあり方、通学対策

小中一貫教育とは

◎国の教育制度(H28～)

- ・ H12～他自治体でモデル的に取組み
- ・ H27、成果が明らかとなり関連法令が改正
- ・ 小中学校の9年間の教育課程を編成し系統的な教育を実践

◎本市の教育課題への対応に有効

- ・ 児童生徒の授業理解度の向上、学習に悩む子どもの減少、小中ギャップの緩和、自己肯定感の向上
- ・ 教職員の指導改善意欲の向上、指導力の向上、小中学校間の評価感等の差の縮小

「鶴岡型小中一貫教育」の特徴

◎コミュニティ・スクールと小中一貫教育を両輪に

- ・ 地域の特色ある教育と小中一貫教育により、本市の教育目標を実現
- ・ R5に鶴岡型小中一貫教育基本計画を策定し、R6に11中学校ブロックで具体計画を検討

◎鶴岡型小中一貫教育の形態

- ① 現在の中学校ブロックで一貫教育(小中一貫校設置せず)
- ② 併設型小学校中学校(小中一貫校を設置)
- ③ 義務教育学校(小中一貫校を設置)
- ※①から進め、必要に応じ②③を検討

令和4年度の主な説明事項と意見

説明事項

意見

藤島地域における教育環境の現状と課題
(第1回会議 令和4年10月7日開催)

少子化に伴う児童生徒数の今後の推移、老朽化が進む学校施設の状況を説明

◎児童・生徒数の推移

- ・ 3つの小学校の全児童数はR3～10で、422人から297人へと約30%減少
- ・ 中学校の全生徒数はR3～16で、252人から140人へと約44%減少

◎小学校・中学校学級数の推移

- ・ 児童生徒数の減少により、複式学級の発生や、学級数の減少による教職員配置数の減少が見込まれる

◎藤島中学校施設の現状と課題

- ・ 藤島中は築55年で、広範囲に劣化し早急な対応が必要※

◎各小学校施設の現状と課題

- ・ 藤島小は築47年で、広範囲に劣化。内部仕上げは部分的に劣化※
- ・ 東栄小は築39年で、広範囲に劣化※
- ・ 渡前小は築35年で、広範囲に劣化※

- 藤島中と藤島小は地盤沈下等による躯体のゆがみが認められる。

※令和2年劣化状況調査

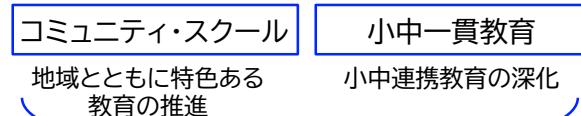
鶴岡型小中一貫教育の推進
(第1回会議 令和4年10月7日開催)

R7年度導入の「鶴岡型小中一貫教育」の概要を説明

◎学校教育の現状と課題

- ・ 「確かな学力の育成」「小中ギャップへの対応」「社会性育成機能の強化」「ふるさと鶴岡を愛する子どもの育成」「学校課題の多様化・複雑化」
- ・ 令和3年度不登校者数の増加
小6(14人)
⇒中1(43人)、中2(40人)中3(36人)

◎課題解決に向けて



2つを両輪として「鶴岡市教育目標」である
ふるさと鶴岡を愛する、いのち輝く人間の育成
 を実現

◎鶴岡型小中一貫教育で大切にする
「4つのつながり」

- ① 目標のつながり
- ② 教育課程のつながり
- ③ 活動のつながり
- ④ 家庭・地域とのつながり

県内の先進事例(酒田市、新庄市立萩野学園)
(第2回会議 令和4年11月17日開催)

先進事例から「小中一貫教育」「小中一貫校(義務教育学校)」の成果と課題を研修

◎酒田市の小中一貫教育の概要

- ・ 平成28年から検討を始め、令和4年度から市内全中学校区で小中一貫教育を導入
- ・ 小中一貫教育は「小中ギャップの解消」「小中学校教員の指導力向上」を図り、酒田市の教育目標を実現するための手段
- ・ 小中一貫教育の形態は「施設分離型」
- ・ 「スクール・コミュニティ(子どもと学校を軸とした地域づくり)」と「小中一貫教育」を推進

◎新庄市立萩野学園(義務教育学校)の概要

- ・ 新庄市では平成18年から「小中一貫教育」に取り組む。萩野学園は、3つの小学校と1つの中学校が統合し、平成27年に開校。平成28年の法改正により県内初の「義務教育学校」に
- ・ 「小中ギャップ」の解消に向け、前期(1～4年生)、中期(5～7年生)、後期(8～9年生)の3ブロック制で、子ども達は4回リーダーを経験
- ・ 発達段階に応じた学年区分、異学年交流、ふるさと学習、教科担任制などで「心の安定」が図られ、問題行動、不登校減少。小中学校の強みを生かし「学力の向上」に取り組む。

藤島中改築に伴う教育環境のあり方
(第3回会議 令和5年1月26日開催)

「藤島中改築に伴いどのような教育環境を実現したいか」をテーマにグループ協議

◎藤島地域の教育で何が課題か

- ・ 人口減少・少子高齢化による地域活力の低下、課題を今後の地域づくりに活かすべき
- ・ これからの社会を見据えた質の高い教育活動が必要、学校の小規模化・複式学級では教育目的が果たせない
- ・ 小中学校施設が老朽化している
- ・ 小規模校では競争力、社会力、集団適応力育成に懸念がある
- ・ 複式学級に不安をもつ保護者がいる

◎その課題を解決するため、小中一貫教育、
学校施設はどうあるべきか。またその条件は。

- ・ 教育諸課題を解決するため、小中一貫教育を推進する。小中一貫教育の効果が発揮できる小中学校の施設一体型の「義務教育学校」または「併設型小学校・中学校」を開設
- ・ 学校統廃合という視点ではなく、藤島地域の全小中学校がこれからの時代の学校へ
- ・ 学校規模の適正化は必要であるが、魅力ある学校づくり、住民も利用できる学校に
- ・ そのためには、地域や保護者からの理解と納得が必要。地域が応援したくなる教育方針と学校理念を示すべき。通学など児童生徒のケアは細やかに

令和5年度の検討事項(案) (第4回会議 令和5年3月10日開催)

- 第5回会議 藤島地域の小中学校のあり方…目指す小中一貫教育の形態と課題
- 第6回会議 新校舎の施設規模、校舎機能…あり方を踏まえた新校舎規模・機能(合築等)
- 第7回会議 地域支援のあり方、通学対策等…コミュニティ・スクール、部活等地域移行、通学等児童生徒のケア、最終報告書の確認

地元意見の集約方法

- 説明会(地区住民、保護者対象)
 …各地区等で5～7月、10～12月開催
- アンケート(子どもと保護者対象)
 …オンラインツールを活用し5～7月に実施

◎その他

- ・ 新校整備と地域活性化を同時に取り組む
- ・ 小学校で取り組む伝統芸能は工夫し継続
- ・ 跡地の利活用し地域振興を
- ・ 世代交流は地域が主体に